

②

平成28年度

地域で子育て応援事業

志免子育て支援コミュニティ おおきな木

×

志免町 子育て支援課

事業の概要

①講演会の開催

「豊かな心を育てる外遊び」 佐伯美保 氏

9月21日（水）10時～12時

参加者：27名、スタッフ：8名

②プレーパークの開催

5月～3月 全8回開催

③地域公民館での出張子育て交流会

別府文化センター 全10回

目的：地域ぐるみで子どもを育てる環境を整えること
対象：子育て中の住民や地域の大人
手段：学び合う場やきっかけを提供する

子育て支援課

- 町内会との調整
- 専門職スタッフ（保育士等）の出勤
- 事業実施前後の広報
- 事業実施会場の確保及び手続き
- 行政内部での協働事業についての周知と協力要請

志免子育て支援コミュニティ おおきな木

- 事業の詳細な計画立案
- 講師との綿密な折衝
- 当日の運営
- 使用備品等の片づけ、管理
- 団体の資源を使っでの参加者募集
- 参加者へのフォロー
- 協力者（町内会）への報告
- 保険の加入

事業が生まれたきっかけ

- 地域の住民同士の関係性の希薄化
特に子どもと大人の関わりがほとんどない
- 「子育ては地域ぐるみで！」意識の衰退
- 子育て中の保護者が孤立を感じるケースの増加

子育て支援課

親だけでなく地域住民
の声を聴きたい！

住民に主体的に
関わってほしいが、
お客様化してしまう…

おおきな木

町内会長へ協力依頼は
団体からやりにくい

公民館や町内会の
可能性に気付いてほしい

「地域で子育て」を
どの地域でも！

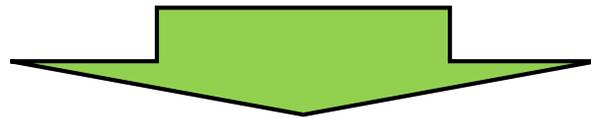
事業の様子



成果

事業を行ったことで、「地域ぐるみで子どもを育てる環境を整えること」はどう変わった？

- 自主的にやってみようとする意識の変化
- 町内会の理解が得られた



子どもをきっかけに住民がつながる場が2か所できた。（南里2、別府文化センター）

地域ぐるみの子育てに関する 参加者・関係者の意見

- 参加者から

「近所の人と知り合いになれる場所があればいい
とっていた」

「プレーパークなど、親子だけでできない遊びが
できて楽しかった」

- 町内会から

「町内会でもできるところはやっている」

「町内会の負担が増えると、継続が難しそうだ」

→ 今後も継続して子育てサークル立上げや運営を支援する
ことで、関わる人を増やし、意識を変えていく。

協働事業をやってみてわかったこと！

行政の仕事の進め方の特徴をつかもう！

- ⇒ 行政職員は、事業計画をもとに業務を進めるので、どうしても越えられない枠もある。担当者の異動もあり得る。

「協働事業終了後どうする？」早めに協議を！

- ⇒ 行政にとっては、今後事業化するかどうかを見極めるとい側面がある。
行政のスケジュールから逆算して、事業の評価・考察、協議、計画立案を！